

高梁市議会だより

第53号
2023年2月



高梁市議会新体制スタート
議員定数2議席減に決定!!
ラ・フォーレ吹屋の今後は?!

石田議長 新体制

議長就任のあいさつ

高梁市議会議長 石田芳生

立春を過ぎて、少しずつ春の息吹が感じられるようになりました。

平素より高梁市議会の活動にご理解ご協力いただき大変ありがとうございます。

令和4年10月31日より議長に就任させていただくこととなりました。これまで諸先輩方が積み重ねてこられた議会の在り方を踏まえ、さらに予測不可能な将来に向き合っていかなければなりません。そして議会活動は、市民が幸せを実感できるような市政の実現に寄与するもので

なくてはならないと考えています。

市民との信頼関係の構築については常に課題であります。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな活動が制約され、対話や意思疎通が困難でありましたが、議会報告会や意見交換会等を中心として市民との対話を再開したいと考えています。また、議員の在り方について市民から疑問を抱かれる事案が発生したこともあり、理念としての政治倫理ではなく、具体的な取り組みが必要であると考えています。その上で、議会が執行部に対して

チェック機能を十分に果たし、さらに政策提案をすることができるよう、議員は学び、行動する必要があります。

議員定数、議員報酬や委員会構成等を含む議員や議会の在り方についても取り組まなければなりません。現在の議会機能の充実とともに、今後の議員の確保、社会状況の変化に対応できる議会の在り方を考えるうえで必

要不可欠です。令和4年12月議会で議員定数は18から16に削減との結論が出ましたが、多様性の確保、広範な市域から市民の声をどのように市政に反映させていくのか、さらに魅力ある議会の在り方を整え議員の成り手を確保することについては議論が進んでいません。これらのことについては議会のあり方検討特別委員会を中心に取り組みんでいきます。

今後とも市民、そして市民活動の現場を意識して職責を果たしていきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



委員会メンバーの紹介



総務文教委員会

委員長 伊藤 泰樹
副委員長 金尾 恭士
委員 川上 博司
〃 倉野 嗣雄
〃 石部 誠
〃 石田 芳生



産業経済委員会

委員長 森 和之
副委員長 石井 聡美
委員 三村 靖行
〃 新倉 淳
〃 平松 久幸



市民生活委員会

委員長 森上 昌生
副委員長 大月 健一
委員 宮田 公人
〃 川上 修一
〃 小林 重樹
〃 宮田 好夫

議会運営委員会

委員長 宮田 好夫
副委員長 石部 誠
委員 川上 博司
〃 森上 昌生
〃 森 和之
〃 伊藤 泰樹

議会広報公聴
特別委員会

委員長 森 和之
副委員長 金尾 恭士
委員 石部 誠
〃 石井 聡美
〃 森上 昌生
〃 伊藤 泰樹
〃 新倉 淳
〃 平松 久幸

議会 ICT 化推進
特別委員会

委員長 石井 聡美
副委員長 平松 久幸
委員 宮田 公人
〃 石部 誠
〃 森上 昌生
〃 伊藤 泰樹

議会のあり方検討
特別委員会

委員長 宮田 好夫
副委員長 石部 誠
委員 川上 博司
〃 石井 聡美
〃 森上 昌生
〃 森 和之
〃 伊藤 泰樹
〃 金尾 恭士

副議長就任のあいさつ

高梁市議会副議長 宮田 好夫

このたび副議長

を拝命しまし

た宮田 好夫

です。新型

コロナウイル

ス感染症のまん延

により地域経済や市民生活は厳し

い状況になっています。国はコロ

ナ対策や物価高対策の予算を自治

体に配分しています。その使い道

は自治体の裁量による部分もあり、

議会のチエック機能も重要です。

石田新議長の下、議会審議がさ

らに活性化されるよう努力してい

きます。

次に議会改革です。コロナ禍に

おいて改革の取り組みが制限され、

議会活動が見えないとの声も聞か

れます。引き続き議会改革を進め

開かれた議会、市民の負託に十分

応えられる議会を目指します。ど

うぞよろしくお願いいたします。



議会全員協議会

11月16日に議会全員協議会が開催され、執行部から中期財政見通し、川上医療センターの新しい運営方法等、消防団員の処遇改善に向けた団員報酬等の見直しについての説明がありました。

中期財政見通しについて

令和3年度の決算や総合計画実施計画のローリングを行った「高梁市中期財政見通し」の報告がありました。議員からは市民生活や教育振興に必要な事業もローリングの対象になっているがどう考えているのか、物価高騰の収束が見えない中でローリングした結果だろうが、今後はどう変化していくのかなどの質疑がありました。

執行部からは、普通建設事業費は全体の調整の中で圧縮したが、今後の財政指標を勘案して総合計画の実施計画等は毎年見直していく。また物価高騰の収束は見通せないが、国の新たな補助金や地方債などの有利な財源があれば、次年度以降に検討したい。来年度以降物価上昇の状況が変われば改めて推計値を変えながら健全な財政運営に努めたいとの答弁がありました。

高梁市川上医療センターの運営方法等について

川上医療センターを令和5年4月1日より、成羽病院附属化し西部の医療系サービスを一体的に維持継続できるよう運営方法を変更するという報告がありました。

議員からは附属化することで市民へのサービスはどう変化するか、医療介護専門職等の人材不足解消になるのか、財政運営を含めて効率的な運営が可能なのかなどの質疑が行われました。

執行部からは、運営は今まで通り社会福祉法人旭川荘が行うため市民へのサービス提供に影響はない。附属化することで組織が大きくなれば、医療機関や大病院などへ説得力あるアプローチができ、人材不足の解消にもメリットがある。運営については、川上医療センターも含めた経営強化プランを現在検討中なので改めて説明する機会を設けたいと答弁がありました。

消防団員の処遇改善に向けた団員報酬等の見直しについて

地域防災力の中で消防団が果たす役割は高く評価されるときも、必要不可欠な存在となります。

しかし消防団員数は、全国的に減少の一途をたどっていて高梁市も例外ではありません。

消防団員を確保することを目的として、年額報酬、出勤報酬をはじめとした団員の適切な処遇の在り方が消防庁で検討され、高梁市でもこのたび、団員報酬等の見直しが示されました。



11月臨時会

11月16日、物価高騰対策を含む約1億5000万円の補正予算を可決

国の「新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金」による物価高騰等総合支援策として生活者や事業者の負担を軽減するため、執行部から補正予算が提案されました。

議員からは、コロナ禍で影響が大きいのは大学生のいる家庭であり支援が必要と感じるが、18歳までとする理由は何か、岡山空港から吹屋への2次交通は利用者が少ないのに支援が多額ではないか、前回の農業者支援が広報周知できていない中で、今回の補正予算には疑問を感じるなどの質問がありました。

執行部からは、大学生のいる家庭は経済的にも大変だが、児童福祉法に定める範囲での支援にした、子ども1人1万円の算定根拠は民間シンクタンク調査の試算によるもの、観光支援については旅行者との協議により岡山空港だけでなく駅からバ

ローリング：計画の実行⇒分析・評価⇒計画の修正・実行というサイクル（循環）を繰り返していく方法



消防団

消防団員について

Q 消防団員は公務員なの？

A 消防団員は非常勤特別職の地方公務員となります。

Q 消防団員に報酬はあるの？

A 年額報酬（数万円程度）や災害、訓練に出動した際には出動報酬（数千円程度）が支給されています。

Q 消防団員の入団資格は？

A 18歳以上で、その市区町村に居住（または勤務・通学）している人なら男性でも女性でも入団できます。

Q 高梁市消防団員の定数は

A 高梁市消防団条例では定数1400名ですが現在1297名で活動しています。



見直した対する課題

課題1 報酬の見直しで

団員は増えるの？

地域に貢献するボランティア精神を持った団員がほとんどだと考えられる中で報酬を増やせば団員増につながるのだろうか、団員の活動負担減や組織の在り方なども検討が必要かもしれません。

課題2 部の運営費は

どうするのか？

現在運営費は部が管理していますが、報酬を個人支給にすると、部の運営費は個人から改めて徴収しなければなりません。個人徴収は問題点も多く、部の運営費に関しては検討の余地があります。

課題3 出動報酬の時間は

どう計算するのか？

現場から解散した時間をもって出動時間とするのか、後片付けの完了した時間をもって出動時間とするのかなど出動時間の計算なども課題です。

出動報酬

(単位：円)

種 別	交付税基準	現 状	改 正 案
出 動	7,000	2,100	2 時間以内 2,000
			2 時間超～4 時間以内 4,000
			4 時間超～6 時間以内 6,000
			6 時間超 8,000
指導等	—	2,100	1回当たり 2,000
訓 練	—	2,100	
会議等	—	1,500	

年額報酬

(単位：円)

対 象	交付税基準	現 状	改正案
団 長	82,500	175,000	82,500
副団長	69,000	96,000	69,000
本部長・分団長	50,500	71,000	50,500
副分団長	45,500	51,000	45,500
部 長	37,000	41,000	37,000
副部長・班長	37,000	19,500	37,000
団 員	36,500	18,500	36,500



たかはし子育て応援
物価高騰対策事業
3,457万円

私立保育園
給食費支援事業
150万円



備中高梁周遊観光
誘客助成事業
3,000万円



2次交通
実証運行事業
1,500万円



中小企業等
省エネ設備への更新に
対する補助金
1,000万円



畜産農家支援
1,700万円



農業者支援
2,000万円

ス、タクシー、レンタカーを利用して高梁市の観光を楽しめるようにしている、農業者支援については今回の支援も含めて広報周知を図っていくとの説明がありました。



令和4年12月定例会

ラ・フォーレ吹屋 オーダーメイド住宅で 賛否の分かれる大激論!

令和4年12月2日から21日までの20日間、令和4年第8回12月定例会が開催され、市長からは議案23件が提出されました。そして会期中には追加で人件費に係る議案10件が提出され、これを含め議案33件は全て承認または可決されました。また、「高梁市議会議員定数条例の一部を改正する条例」が議員有志から提出され、賛成多数で可決となりました。

議案第81号「高梁市営定住促進住宅条例」は、市外からの移住者による人口増加と、若者や子育て世代の定住促進を目指して、成羽町の旧鶴鳴保育園跡地に整備する10区画の分譲地のうち1区画をオーダーメイド型の定住促進住宅にするための議案です。

議員からは、ZEH工法による建設費3000万円の設定根拠はどこにあるのか、オーダーメイド住宅の定義はどうなっているのか、プロポーザル方式に参加できる業者は限られるが公平性に欠けないか、見切り発車ではないか、空き家対策に力を入れるべきではないかなどの質問が相次ぎました。

この議案は、事前の詳細な説明や資料がなく、議員からの質疑が相次ぎました。なぜ、今、指定管理者の変更を行うのか、14年にわたって吹屋地域の住民とともに一体となって経営をされてきた現指定管理者に対して、配慮がないのではないか、下電ホテルの経営状況を把握しているのか、指定管理料はいくらなのか、施設のリフォーム計画をどのように考えているのかなど詳細な質問がありました。

これに対して執行部からは、3000万円で建築できると考えている。オーダーメイド住宅は入居者の希望を聞いて建築していく。今後の日程は、2、3月で入居者募集、3LDK、2階建て、100㎡の設計で、令和5年度内に完成させたいとの答弁がありました。賛否の分かれる中で、条例案は可決されました。

議案第85号、86号は、農林漁業体験実習館（ラ・フォーレ吹屋）など2施設の新たな指定管理者として㈱下電ホテル、㈱ティ・シー・シー（天満屋グループ）の共同事業体を指定するものです。

年間経営に尽力してくださった。しかし、吹屋地区を巡る環境が日本遺産認定、旧吹屋小学校オープンによって大きく変化した。指定管理者の原則論に基づいて公募した、リフォームについては必要性を感じているが、現時点では決まっていないと答弁がありました。今後も、議会として注視したいところです。

執行部からは、現経営者は14

執行部からは、現経営者は14



▲ラ・フォーレ吹屋

ZEH(ゼッチ):「高断熱」「省エネ」「創エネ」を取り入れ年間のエネルギー消費量が「家で消費される電力よりも、創り出される電力のほうが多い(もしくは同じ)住宅」(ネット・ゼロ・エネルギーハウスの略)

プロポーザル方式:「技術的に高度」もしくは「専門的な技術が要求」される業務の発注に使われる発注方式。業務を受注したい業者は一定のテーマに基づき金額等を提案する。発注者は提案された内容を評価して発注する。

反対討論

石部 誠 議員

議案第81号、85号、86号に反対し、その他の議案に賛成の立場で討論する。

議案第81号「高梁市営定住促進住宅条例」は、成羽地域にオーダモード住宅を一戸約3000万円で建築し、月6万円を25年間で合計1800万円の支払い後に、土地も含め移住者に譲渡する条例である。一世帯のみでは、定住促進とは言えず反対する。

議案第85号、86号は、宿泊施設ラ・フォーレ吹屋等の指定管理に関わる議案である。現指定管理者は、観光客の軽減が続く中で、吹屋地域の活性化やまちづくりにも深く関わってこられた方である。指定管理者選定委員会には地域の方が一人も含まれず、地域の実情や活動をされている方の意見が一切反映されていない。地域の一体感や、まちづくりを頑張る気持ちに水を差すものであり両議案に反対する。

反対討論

金尾 恭士 議員

議案第81号、85号、86号に反対し、その他の議案は委員長報告を了とする。

議案第81号「高梁市営定住促進住宅条例」について、建設費の3000万円は物価高や資材高も要因と考えられるが、プロポーザル方式の採用などに不透明な部分があり精査が必要。条例についても様々な疑問点があり反対する。

議案第85号、86号は、ラ・フォーレ吹屋等の指定管理についてである。両議案とも議会へ十分に丁寧な説明や討議、資料の無いままの提案である。市は指定管理の「原則に基づいた」と答弁されたが、プロセスが不透明であり、現在の指定管理者や従業員、地域の方に寄り添ったとは言えず、まちづくりや人づくりに反していると考え、両議案に反対する。

賛成討論

小林 重樹 議員

全ての議案に賛成の立場であるが、議案第81号、85号、86号について討論を行う。

議案第81号「高梁市営定住促進住宅条例」は、島根県飯南町のセミオーダー住宅をモデルにしている。問題もあると考えるが、この一戸を定住移住促進の起爆剤として、先進地の研究を行い進めていきたい。

議案第85号、86号は、宿泊施設ラ・フォーレ吹屋等の指定管理に関わる議案である。この案件の問題点は全員協議会が開かれず、議長にも打診が無かったことである。コロナ禍で現指定管理者が大変苦労している時の公募ではあったが、選考委員会でも十分検討され決定したものと思われ良しとする。また新しい指定管理者が共同事業体であり一抹の不安があるが、これから執行部による十分な調査や熟考を求めて賛成する。

12月定例会で賛否が分かれた議案の採決結果

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

議案番号	件 名	金尾	新倉	平松	伊藤	森上	森	石井	三村	石部	宮田好	小林	川上修	倉野	川上博	宮田公	大月
議案第81号	高梁市営定住促進住宅条例	●	○	○	○	●	欠	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第85号	農林漁業体験実習館の指定管理者の指定について	●	○	●	○	●	欠	○	○	●	○	○	●	●	○	○	○
議案第86号	吹屋農村交流促進館の指定管理者の指定について	●	○	●	○	●	欠	○	○	●	○	○	●	●	○	○	○
乙議案第5号	高梁市議会議員定数条例の一部を改正する条例	○	●	○	○	○	欠	○	●	●	●	○	●	○	●	○	○

※議案第85号、86号はラ・フォーレ吹屋に関連する議案です。

※議長は採決には加わりません。 ※他の議案は全会一致で可決しました。

議員定数

18

16

2減

市民の意見集約や
行政のチェック機能は維持できるのか？

議会最終日に、議員定数を2議席削減する議案が議員有志により提出され議決されました。

議員定数については2年前から「議会のあり方検討特別委員会」において論議しており、本年8月には集約された内容を報告書にまとめました。報告書では、現状維持が8名、2議席減が7名、2あるいは4議席減が1名、4議席減が1名となり、議員定数については、議員各位の判断に委ねることになりました。当該委員会では、他に「目指す議会の在り方」や「議員報酬」についても調査研究を行っています。

その結果を受け、12月議会に3名の議員の連名で、定数を2議席削減する議案が提出されました。

提案者からは、議会のあり方検討特別委員会で、特に議員の定数について議論をしたが、意見集約には至らず各論併記となった。前回の市議会議員選挙が無投票であり、2年後の選挙を想定すれば、議会の活性化と議員

の成り手不足を解消する努力と併せて、有権者の皆さんに選ぶことのできる枠組みを作ることが議会としての責任であるとの説明がありました。

質疑では、議会のあり方検討特別委員会の結論に対するリスパクトの問題。みんなで話し合い結論を導くことが民主的ルールではないか、各議員に賛成の念書を求めるやり方は、議会や議員間に対立を生むのではないかと、もつと協議が必要で慎重に行うべきではないかなどの意見が出されました。

これに対し提案者からは、意見集約ができない中で、最終的に数で決めるしかない判断した、乱暴かどうかはそれぞれの議員の判断であり、今後の議会でご指摘いただきたいという答弁がありました。

討論には賛成の立場から2名、反対の立場から1名が参加しました。

賛成討論では、定数削減をす

ることで、市民の意見が通りにくくなる、行政のチェック機能も働かなくなるなど懸念もあるが、投票により市民の負託を受けることが必要と考え賛成する、2年間の議論では採決に至らずこの日を迎えた。今後の人口減を勘案すると、次回選挙が無投票にならない保証もなく、今議会で結論を出すべきである。定数減により各議員の負担は大きくなるが、一層精進すべきと考えるところといった意見がありました。

反対討論では、結論が出ない場合は多数決を採らないといけないが、議会のあり方検討特別委員会では今後も議論を進めることとしている。また2年間の議論では多様な意見が出された。その合意に基づいて出されたのが委員会の結論である。委員会で議論を尽くして結論を出すべきという意見がありました。

採決では、9名が賛成、6名が反対し、賛成多数により定数減が決まりました。

(注)現在の議員定数は18名ですが、1名は欠員、1名は欠席、議長を除く15名で採決を行いました。

新消防庁舎・行政改革プランについて調査しました

新消防庁舎について

5月27日と7月25日の全員協議会で経過や施設概要等について説明及び協議が行われましたが、所管する総務文教委員会として10月19日にその後の状況を調査しました。

委員からは、地元協議、操法訓練スペースの利用と災害時の対応、建設費の圧縮などについて質問がありました。

消防本部からは、地元協議

に関しては、県と協議をするものも含めて対応していく、操法訓練スペースは臨時駐車場としても活用できる、災害時の手段として車両を移動させる場所を御殿坂以外でも検討している、建設費については

消防活動の機能を低下させずに建設資材等の変更により約1億円圧縮できたとの報告を受けました。

委員会として、新消防庁舎建設については継続的に調査研究に務めていきます。

行政改革プランについて

令和4年度は第3次となる行財政改革プランの最終年度となり、令和5年度からは第4次の行財政改革プランがス

タートします。これまでの取り

組みと成果の説明を受けた委員からは、改善されるプロセスや大型事業に対する事業評価、今までの進捗状況に関して、職員の本気度が伝わってこないなど厳しい意見がありました。

理財課からは、事業評価は主要事業の中から133事業を対象としている。各課へフィードバックしながら次年度

の予算を計上している。対象事業は固定ではないので指摘のあった事業は次年度以降、評価の参考にする。計画を作成

している以上、終了年度には100%達成するつもりで取り組んでいくとの回答がありました。

会派からのお知らせ

11月に新たに2つの会派ができました。また、高梁政志会の所属議員に変更がありました。

設立 新風の会

会長 石井聡美
幹事長 森上昌生
事務局 金尾恭士

「一陣の風を議会に！」をスローガンに、力を合わせて議会活動を行います。

設立 かけはし

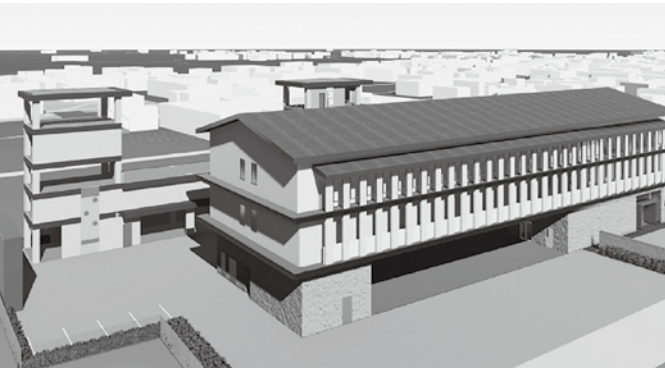
代表者 宮田公人
副代表者 伊藤泰樹

市民との「かけはし」になりたいという思いを会派名に込めました。

変更 高梁政志会

会長 倉野嗣雄
幹事長 川上修一
会計 新倉 淳
小林重樹

▲新消防庁舎イメージ図



ココを聞きました!

石部 誠 ・インボイス制度について
・市民生活支援のための「市民アンケート」について
・学校給食の無償化について
・補聴器購入助成について

森上昌生 ・国語教育について
・高梁市の観光施策について
・ピースワンコ・ジャパン西山犬舎について

小林重樹 ・令和5年度予算編成について
・高梁市医療計画について

石井聡美 ・市のDX推進について
・観光施策について
・中学校の校則について

森 和之 ・市街地における防災組織について
・高梁川における鵜の被害について
・市民のボランティア活動について
・公園の管理とスポーツについて
・防草シートについて

川上博司 ・出産・子育て応援交付金事業について
・国民健康保険の高額療養費支給申請について

金尾恭士 ・教育等について
・備中神楽の国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録について
・コロナ禍における高梁市の経済状況等の把握について
・高梁市総合計画の進捗状況と評価について
・むし歯予防のための児童のフッ素洗口、乳幼児のフッ素塗布について
・川上町高山市地区住民の「井原市予約型乗合タクシー」の利用について
・川上町仁賀地区旧養鶏場施設の適切な処理と環境対策について

平松久幸 ・市内県立高校の現状について
・ゼロカーボンシティ宣言後の本市の取組について
・職員の意識改革について
・地域モビリティについて

伊藤泰樹 ・防犯灯について
・学校給食について
・経済活動について
・病気療養者支援について
・住宅建築支援について

倉野嗣雄 ・行財政改革について
・農業施策について
・地域振興基金について
・定住対策について

新倉 淳 ・消防業務について
・新消防庁舎について

インボイス制度について

石部 インボイス制度の導入に当たり、中小企業や個人事業主、農家など地域経済に及ぼす影響は大きいと考えるが、市の対応は、**産業経済部長** 消費税は国の制度であり、専門的な相談、アドバイスは税務署や商工団体を案内している。

町内会支援制度と評価について

石部 過去に行っていた町内会支援制度は、支援金を出すこともだが、総会等で町内や地域のことを考える機会にもなり、いい制度だと思う。続けていくことが必要ではないか。今後の対応は。

市民生活部長 振り返り奨励金は町内会の振り返りのきつかけづくり、機運の醸成のために行ったものであり、一回のみの支援制度

認知機能予防のためにも
若年性難聴者にも補聴器購入の助成を

石部

であった。

石部 市民アンケートを行い、地域や市民生活を知ってほしい。

市民生活部長 市役所の各部署が皆さんからの要望や意見をいただいている。懇談会等も行っており現状ではアンケートの想定はしていない。

学校給食の無償化について

石部 全国的にも給食の無償化は広がっているが、高梁市でも行えないか。

副市長 基本的には給食費は保護者に負担を求める。それぞれの自治体の財政状況などもある。

補聴器購入助成について

石部 高齢者の認知機能の予防のため、また若年性難聴者のため、補聴器購入の助成をしてほしい。

健康福祉部長 国の難聴に対する支援や方向性の下、市としても支援の範囲や必要性を研究したい。



誠議員

環境負荷対策について 本気でやる気があるのか

国語教育の重要性と
その現状について問う

森上 日本文化の独自性は、我が国固有の言語の影響が極めて大きい。日本語教育の現状はどうかっているか。

教育次長 小学校低学年では1週間に9時間、学年が上がると時間数は減るが、話すこと聞くこと書くこと読むことの指導をしながら、国語力の基礎となる知識を身につけさせている。

森上 言葉による意思疎通の困難な若者同士のトラブルや不登校、さらには自らの行為に対する無自覚といったものが指摘されているが。

教育次長 感情をコントロールする、他者と関わる意欲や情緒的な面を育むことを大切にしている。

森上 昌生 議員

西山犬舎の環境負荷に
対する対策



森上 備中町西山地区のピースワシコ・ジャパン西山犬舎では、現在約600頭前後(広島県における殺処分相当)の捕獲犬を飼養しているという。これらが地域環境に及ぼす影響は決して小さくなく、現状状況の把握は必須では。

市民生活部長 当該施設は、管理監督指導の権限は県にあり、市内にある施設で、当該法人の理解協力により確認している。

森上 実際に汚染があるので、これが西山犬舎から来ているかどうかは分からないが、その原因を特定すべきではないか。

副市長 今は推定の域での調査なので、これ以上の踏み込み、深堀りは、我々に監督権限があればできるが、権限がなくてできないと認識している。

市民に安心を届ける救急体制を問う！

救急搬送について

小林 令和3年度の高梁市内の救急車出動件数は、どういう状況だったのか。

消防長 救急出動件数1828件、救急搬送1748件、管内医療機関への搬送1106名、管外医療機関搬送198名、夜間143名(17時～翌朝8時30分)、土日祝日の搬送は7名(内夜間60名)となっている。

小林 24時間365日市民に安心を届けるための課題は無いのか。

消防長 高梁市管内の広範囲への救急出動のため時間はかかっている。救急車の到着は全国平均で8.7分、高梁市は12.5分である。

医療機関への搬送時間は、全国平均39.5分、高梁市は50.2分である。

小林 重樹 議員



小林 休日夜間急病センターの体制構築について、計画・必要性をどのように感じているのか。

市長 総合診療医の育成、必要性を強く感じている。現場の医療機関の意見を踏まえて、医師会、保健所、消防等関係機関との協議の場を設けることから進めていきたいと考えている。

小林 休日夜間救急センターの取り組みについて研究・調査費として次年度の予算に組み入れてはどうか。

市長 関係機関の協議の場での議論をもとに必要な予算措置を検討している。

心筋梗塞
年齢調査死亡率

岡山県
29 人

全国平均
16 人

1位 福島県
2位 高知県
3位 岡山県

2015年 10万人当たり



高梁市議会
YouTube 公式チャンネル



EBPM推進のための人材育成を

石井 聡美 議員



EBPM推進について

石井 国が進めているEBPMについて、高梁市でもデータが読める人材を育成するための部署を検討しているか。

政策監 そういった人材を育成しなければならぬという認識は持っている。

石井 市の政策にもデータを活用していくべきではないか。

政策監 データ分析能力など専門知識への理解が足りないところがある。職員の人材育成と併せて重点的に図っていききたい。

EBPM (エビデンスに基づく政策立案) : 経験や勘に頼るのではなく、きちんとデータを取り、それを適切に分析した合理的根拠 (エビデンス) に基づいて行うこと。

中学校の校則について

石井 生徒指導提要が12年ぶりに改訂された。高梁市での校則見直しは、こういった形で行われているのか。

参与 見直しの必要は感じており、各学校で取り組みが進んでいる。

石井 服装等の校則については、どう認識しているのか。

参与 服装や防寒に関する規定は、生徒からの提案で見直しが行われた事例が出ている。

石井 学校ホームページへ校則を掲載すべき。

参与 そういった方向で学校に助言をしていきたい。

生徒指導提要：生徒指導の方法について文部科学省がまとめた、学校・教職員向けの基本書。

ストリートスポーツの施設整備を強く求める

森 和之 議員



市街地における防災組織について

森 市街地の自主防災組織設立において、簡易的な運営ルールやマニュアルができれば、結成率の向上につながるのではないかと。

政策監 高梁市地域防災力向上委員会が自主防災組織の設立活動マニュアルを現在、作成中である。

高梁川におけるカワウの被害について

森 激減している鮎とオイカワは高梁川の名産である。大きな原因となっているカワウの駆除に取り組むべきではないか。

政策監 高梁市では鳥獣被害防止計画においてカワウを鳥類の重要駆除対象としている。令和2年度からは、駆除奨励金を1000円から2000円に上げている。引

公園の管理とスポーツについて

き続きカワウの漁業被害対策に取り組んでいく。

森 駆除数を上げるためにも駆除奨励金を見直せないか。

政策監 被害額など実態を調査した上で駆除費についても今後検討すべきものと考えている。

森 市街地において屋外でバスケットボールを楽しめる場所がない。施設整備を含めて検討できないか。

教育次長 質問を受けてマスカットスタジアムの状況を視察した。候補地とか方法などを内部では検討している。愛好者の意見を聞きながら進めていきたい。

国民健康保険の高額療養費支給申請を簡素化すべきではないか

川上 博司 議員



出産・子育て応援
交付金事業について

川上 妊娠届出時より子育て家庭に寄り添う伴走型相談支援の充実を図り、妊娠届出や出産届出を行った妊婦等に対し、出産育児関連用品の購入費助成や子育て支援サービスの利用負担軽減を図る等10万円相当の経済的支援を一体として実施する「出産・子育て応援交付金」事業について、どのように取り組んでいくのか。

健康福祉部長 本市では子育て包括支援センターにおいて、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援を行っている。電子クーポン等の経済的支援については対象者のニーズや要望を取り入れて伴走型支援と一体となって実施していきたい。

国保の高額療養費
支給申請について

川上 国民健康保険法施行規則の一部を改正する省令が施行されたことに伴い、後期高齢者医療制度と同様に、実質的な申請は初回時のみで足りるようにすることも可能となった。これにより、市に月毎に申請するという被保険者の負担の軽減に資すると思われる。高額療養費支給申請を簡素化すべきではないか。

市長 高額療養費支給申請を簡素化することによって、滞納者との接触の機会が失われることや、レセプトを突合することによりレセプトの記載誤りを発見できる機会を失うことなどの課題も考えられるが、簡素化できるよう前向きに取り組んでいく。

「備中神楽」全国の仲間と共にユネスコ登録を目指そう

金尾 恭士 議員



千載一遇のチャンス
無形文化遺産登録の取り組みを

金尾 2026年の登録を目指して全国神楽・振興協議会が2022年10月1日に設立された。備中神楽発祥の地として、高梁市は取り組みを行うべきではないか。

教育次長 正会員に備中神楽成羽保存会が、特別会員に岡山県と高梁市が加盟した。

金尾 市は全国協議会と連携して、千載一遇のチャンスを生かしてほしい。

おし歯予防のための児童や乳幼児のフッ素洗口・塗布について

金尾 子どもたちの医療は、保護者の責任で行われるべきと考えている。市はフッ素洗口・塗布についてどのように考えているのか。

教育長 現段階ではフッ素洗口の実施は考えていない。

健康福祉部長 現在、乳幼児健診でのフッ素塗布は実施していない。市においては前向きに取り組みたいが、実施方法は慎重に検討していきたい。

高山市地区でも「井原市予約型乗合タクシー」の利用を

金尾 北振バスが減便された。川上町仁賀佐屋地区は「井原市予約型乗合タクシー」を利用できているが、川上町高山市地区も同様の取り扱いができないか。

市民生活部長 佐屋地区は市町村合併当時の経緯から取り組んだ。

金尾 行政の公平性という点でアンバランスではないか。早急に解消していただきたい。

市民生活部長 真摯に取り組んでいきたい。

高梁高校、城南高校2校とも存続できるのか！

平松 久幸 議員

県立高校再編基準の柔軟な対応を要望すべき

平松 市内県立高校再編の基準を問う。

教育長 令和5年度以降、1年生が100名を2年連続で下回ると再編対象、80名を下回ると翌年度から募集停止となる。

平松 いつからそうなりそうか。

教育長 280名程度の募集定員に対して市内の生徒が170名程度で、厳しい状況である。

平松 高梁城南高校は対応が待たないではないのか。

教育長 高梁高校は定員が160名で、100名を切るまでにはまだある。高梁城南高校は定員が115名で厳しい状況である。

平松 今後、市として市内県立高校の存続と魅力化にどう取り組む

のか。

教育長 これまでも通学費援助のほか、県立高校の在り方を考える協議会を通して説明会の充実や全国募集の支援などを行ってきた。令和4年度は学校連携コーディネートーターを配置し、地域や中学校と高校を結びながら高校の魅力を発信している。引き続き取り組みたい。

平松 再編基準の柔軟な対応が必要である。市として県教育委員会に要望しないのか。

教育長 県とはこれまでも協議してきた。プロジェクトチームを設置し、市全体で計画を立てた上で、2校の存続、学科の存続、教員配置や人材確保等、引き続き要望していきたい。



地域の現状をよく分析し、寄り添った支援を

伊藤 泰樹 議員

経済活動について

伊藤 毎日の買い物にお困りの方はどう寄り添うのか。

産業経済部長 買物支援だけでなく、高齢者等の移動に関する地域課題の解決には、福祉関係や公共交通の視点からの支援策を構築していく必要があると考えている。

伊藤 物価高騰への対策を問う。

市長 今後、賃金上昇も見込まれる。物価高騰が落ち着いた後には、移動販売を含め、市民の皆様に生活していただくため、利便性が損なわれないように取り組んでいく必要があると考える。

病気療養者支援について

伊藤 リフィル処方箋を普及させることに意義があると考えてるが。

健康福祉部長 市として市民にこの制度を推奨するものではない

が、市民に制度の周知を図っていくには必要と考えている。

伊藤 通院支援が必要ではないのか。

健康福祉部長 通院のみに特化した支援制度は難しいが、全体の交通施策の中で検討を進めたい。

住宅建築支援について

伊藤 若い世代のマイホーム取得の支援制度の一層の拡充を。

市民生活部長 本市の支援制度は県下でもトップクラスである。

伊藤 支援を上回る物価高騰の中で、今何を求められ、何が適切なのか一層の検討を要望する。

伊藤 建て替えを前提とした場合、老朽危険建物除却促進事業補助金を拡充できないか。

市民生活部長 現行制度の見直しも含めて研究したい。



家の近くまでシシが出る。本気の対策を！

倉野 嗣雄 議員



これからの公共施設について

倉野 公共施設について、早めに計画書を作るという話から半年たつ。どこまでできたのか。

総務部長 平成29年の当初から比較すると、8施設、延床面積で4134平方メートルを削減した。

倉野 類似団体と比べるとかなり多いと思う。年ごとの数値目標と達成率を議会に示すべきでは。

総務部長 現在利用状況や老朽化を客観的に数値化している。2月の全員協議会で意見を伺う。

倉野 近しい人は言にくいこともある。総務部長のような国から来た人が大ナタを振るってほしい。

有害鳥獣対策について

倉野 切実な問題で、毎晩のよう

にインシシが出ている。もっと重点的な対策はできないのか。

政策監 平成29年度から捕獲や防護柵の支援を強化し、一定の成果が出ている。引き続き取り組んでいきたい。

定住対策について

倉野 人口が急激に落ち込んでいる。定住対策に力を入れるというが、本気でやる気があるのか。

市民生活部長 人口減少対策は最重要課題であると考えている。1つの課で成し得るものではないので、全庁を挙げて取り組んでいる。

倉野 不動産業者や地域と市が連携した組織作りが必要では。

市長 宅建業の資格を持った方々との会合で、そういった組織をつくるべく意見交換している。

西分駐所の早急な機能の正常化を求める

新倉 淳 議員



消防署のコロナ禍での機能低下について

新倉 西分駐所が機能していない日が多くあると聞く。その理由はいかなるものか。

市長 コロナの関連でどうしても本庁職員が不足して、令和4年11月末で104回閉鎖している。その中でやむなく24時間閉鎖を延べ23日している。ご不便ご心配をおかけしていることは重々承知している。ドクターカーの要請等で、最善を尽くしたい。

新倉 西分駐所が機能せず、助かるはずの命が助からないようなことが決してあってはならない。待ったなしのスタッフの増員が必要不可欠であると思うがどう考えているのか。



▲消防署西分駐署（備中町地内）

市長 現在3名を再任用で採用している。その方は本部に勤めさせ、そこにいる消防署員を現場対応へという工夫して対応できるように日々努力している。議員の懸念が1日も早く解消されるように最善の努力をしていく。

3月の定例会スケジュール

3/6	月	本会議（議案の上程）
10	金	本会議（一般質問）
13	月	本会議（一般質問）
14	火	本会議（一般質問）
16	木	本会議（議案質疑）
17	金	委員会
20	月	委員会
22	水	委員会
27	月	本会議（採決）

※3月議会への請願・陳情の締め切りは2月28日(火)までです
※日程は変更となる場合があります。正式な日程は決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

政治家の寄付は禁止！
有権者が求めることも
禁止されています！

公職選挙法により、市議会議員が選挙区内でお中元やお歳暮、ご祝儀を出すことは禁止されています。市民から求めることも禁止です。



編集

議会広報公聴特別委員会					委員長 森 和之
委員	委員	委員	委員	委員	副委員長 金尾 恭士
員	員	員	員	員	員 石部 誠
員	員	員	員	員	員 石井 聡美
員	員	員	員	員	員 森上 昌生
員	員	員	員	員	員 伊藤 泰樹
員	員	員	員	員	員 新倉 淳
員	員	員	員	員	員 平松 久幸



屏風「正月雀」



新 高梁人名録

しみず ひあん
清水比庵 氏
(1883～1975)

「老いては益々壮なるべし」の言葉どおり、老齢を前向きに捉えた生き方と遊び心のある創作活動で「昭和の良寛」と慕われた歌人の清水比庵は、明治16年（1883）岡山県上房郡高梁町（現高梁市弓ノ町）に生まれ、京都帝国大学卒業後、司法官、銀行員を経て昭和5年（1930）から10年間栃木県日光町（現日光市）の町長を務めました。

絵手紙を同僚に頻繁に送ったことから「絵手紙の元祖」とも称されています。町長時代に出した歌集が歌壇の話題となりましたが、歌と書画に本腰を入れたのは56歳を過ぎてからでした。「人間は死に至るまで日々進歩する」と日記に

綴り、「晩学のため80歳で勝負しよう」と考えたが、すでに80代半ばを超えたので、もつと長生きするしかない」と語ったのも比庵らしいエピソードです。

川合玉堂、奥村土牛など日本画の大家からも愛された比庵について今年2月18日から「清水比庵展生誕140年〜芸術に遊ぶ〜」と題し高梁市歴史美術館（高梁市文化交流館内）で展示公開が行われます。終活年賀状という言葉が使われるような昨今、70歳から年を重ねることに一羽の雀を書き足した屏風「正月雀」をはじめとする作品に包まれて、どこまでも前向きだった比庵の生き方と人間味溢れる作品に元気を頂けると思えます。

今号の表紙

「二歩前へ」高梁高校
地域事情に配慮しながら、県立高校の再編を検討する方針が県教育委員会より示されました。私立、公立を合わせて高梁市内には5校の高校があります。今号では高梁高校の協力を得て表紙の撮影を行いました。

備中松山藩政を行っていた御根小屋跡に建ち、小堀遠州作庭の心字池など城下町高梁を感じる校舎と自然豊かな環境で、生徒達は「文武不岐」を目標に将来の夢に向かって一歩前へと挑戦しています。

次号も高梁市内の高校にスポットを当てて議会だよりの表紙に取り上げていきます。

あとかき

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
（谷川俊太郎「生きる」抜粋）

今この詩を読み返しています。ちよつとした日常の風景、人の思遣い、そういったものが今なお続いている「コロナ禍によって一変しています。」

この間一人一人何かしら心の拠り所を持たれてきていたのだろーと思います。

今年もコロナ禍で新年が始まりました。感染に気を付けながら経済活動も必要です。私たち議員は地域の実情をしっかりと把握し、議会に反映しなくてはなりません。今年こそ市民一人一人が心の底から飲むうたうことのできる時間を持ちたいものです。

（金尾 恭士）

